

研究 成 果 報 告 書

研究テーマ (和文)	日本における植物肉の消費選好に関するコンジョイント分析		
研究テーマ (英文)	Conjoint analysis on consumer preference for plant meat in Japan		
研究期間	2021年 ~ 2024 年		研究機関名 名古屋大学
研究代表者	氏名	(漢字)	中野 牧子
		(カタカナ)	ナカノ マキコ
		(英文)	Makiko NAKANO
	所属機関・職名		名古屋大学環境学研究科・教授
共同研究者 (計____名) * 2名をこえる場合は、【別紙追加用紙】(P3)に3人目以降を追記してください。	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
<p>概要 (600 字～800 字程度にまとめてください。)</p> <p>牛肉の生産は多くの温室効果ガス排出を伴う。このため、牛肉に代わるタンパク源として豆類をはじめとした植物性の食品が注目を集めている。本研究では、植物肉を含む代替肉に対する消費者の選好を明らかにし、また選好が情報提供にどのような影響を受けるかを、コンジョイント分析の一種である選択型実験によって明らかにした。選択型実験はオンラインアンケートによって 2024 年 11 月に日本において実施した。選択型実験では、主要な原材料が牛肉であるハンバーグのほか、豆腐、大豆ミート、培養肉が主原料のハンバーグの中から購入したいものを回答者に選択してもらった。購入できる場所が限られる場合もあるため、利便性に関する属性も含めた。主要な結論は以下の通りである。情報提供が何もない場合、牛肉、豆腐、大豆ミート、培養肉の順に好まれた。豆腐や豆類と比較して牛肉の環境負荷が高いという情報を回答者に提示したところ、何も提示しない場合と比べ、主原料が豆腐であることへの支払意思額 (WTP: Willingness to pay) は増えたが、大豆ミートに対してはそうでなかった。しかし、プラントベース食品の表示に関する情報の提示は、大豆ミートへの WTP を高めた。また、大豆ミートに焦点をあてた選択型実験も実施したところ、遺伝子組換えの大豆は好まれず、責任ある大豆の生産認証は好まれる結果となった。プラントベース食品の表示に関する情報が信頼性を高めるとともに、責任ある方法によって大豆が生産されていることも信頼性を高める要因であり、WTP の増加につながっていると考えられる。</p>			

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）						
雑誌	論文課題					
	著者名		雑誌名			
	ページ	～	発行年		巻号	
雑誌	論文課題					
	著者名		雑誌名			
	ページ	～	発行年		巻号	
雑誌	論文課題					
	著者名		雑誌名			
	ページ	～	発行年		巻号	
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	

英文抄録（100 語～200 語程度にまとめてください。）

This study conducted a choice experiment to understand preferences for meat and meat alternatives including plant meat and how preferences are affected by the information provision. The online survey of the choice experiment was conducted in November, 2024 in Japan. A respondent is asked to choose most preferred hamburger whose main ingredient is beef, tofu, soy meat, or cultured meat. The attribute related to convenience was also included. The main conclusions are as follows. When no information was provided, beef, tofu, soy meat, and cultured meat were preferred in that order. When informed that the environmental burden of beef is higher than that of tofu and beans, willingness to pay (WTP) for tofu increased compared to WTP without information. On the other hand, WTP for soy meat did not increase. When information is provided about a policy on appropriate labelling of plant-based foods, WTP for soy meat increased. Genetically modified soybeans were not favored, while certification of responsible soybean production was favored. Clear labeling policy and responsible soybean production enhance the product credibility and increased WTP.